

令和5年度 長崎県立佐世保商業高等学校 学校評価表（職員 自己評価）

※データ件数 41

【評価分野】1 学校経営			R5	R4
評価項目	具体的な目標	NO		
学校教育目標	学校の実態に即した目標が設定され、教職員の共通理解のもとに教育目標の具現化を図る。	1	3.0	3.2
学校経営方針	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員がその方針に基づいて教育活動を展開する。	2	3.0	3.2
重点努力目標	学校評価等の結果を踏まえた努力目標が設定され、各教育活動において努力目標達成のための指導を行う。	3	3.0	3.2

【評価分野】2 教育活動			R5	R4
評価項目	具体的な目標	NO		
教育課程	学習指導要領の主旨を生かし、創意工夫した特色ある教育課程を編成する。	4	3.0	3.3
教科指導	基礎基本の内容の重点化、わかる授業、個に応じた指導が展開されている。	5	3.0	3.1
	家庭学習用課題は90%以上の生徒はやってくる。	6	2.6	2.9
	教材研究を十分に行い、生徒の実態に応じて指導方法を工夫する。	7	3.3	3.3
	教育機器や教具を活用し、効果的な授業を行う。	8	3.2	3.3
学習評価	担当者間で評価規準を定め、学期ごとに確認しながら評価を行う。	9	3.4	3.4
	考査以外の観点も評価に加え、多面的に評価する。	10	3.6	3.5
総合的探究 (課題研究)	総合的な探究の時間のねらいが満たされた課題研究の検討・研究を行う。	11	2.8	3.2
特別活動	年間計画に基づいたHR計画、事前準備、活発な活動を展開する。	12	3.1	3.2
	生徒の自発的・自主的な生徒会活動を展開する。	13	3.0	3.3
生徒指導	服装、容儀等について教職員が共通した指導を行う。	14	2.0	2.7
	外来者や教職員に90%以上の生徒が挨拶をする。	15	2.5	2.7
	カウンセリング・マインドを持って生徒の相談に応じる。	16	3.2	3.1
進路指導	多様な進路希望に対応できる組織・情報・資料等の体制ができています。	17	3.0	3.0
	3年生は3月末までに95%以上の進路実現が達成できるように努めている。	18	3.7	3.5
健康・安全教育	生徒の健康状況の把握について、養護教諭・分掌・担任等の連携を図る。	19	3.3	3.6
	衛生や安全に配慮した生活を送れるような指導がなされている。	20	3.3	3.5
人権教育	人権尊重に関する様々な課題を認識させ、解決のための実践力を身につけさせる。	21	3.0	3.2
部活動	部活動を奨励し、学習との両立も図られている。	22	2.5	3.0
	部活動により、達成感、好ましい人間関係、個性の伸長が図られている。	23	2.9	3.1

【評価分野】3 組織運営			R5	R4
評価項目	具体的な目標	NO		
校務分掌	前年度の各分掌の課題を明確にし、その解決を図る。	24	2.8	3.2
	校務が円滑に進められるよう、分掌間の連携を図る。	25	2.8	3.0
各種委員	委員会活動が教育活動や学校経営に生かされている。	26	2.8	3.0
自己研修	授業見学等の機会を設け、教員相互の教育実践の向上を図る。	27	2.7	3.1
	教育課題をふまえた適切な校内研修を行う。	28	2.9	3.3
	教育センター等の各種研修会へ積極的・計画的に参加し、資質の向上を図る。	29	2.7	3.0

【評価分野】4 教育環境			R5	R4
評価項目	具体的な目標	NO		
学校環境の整備	全生徒、全教職員で日々の清掃活動に取り組む。	30	2.7	3.1
	施設・設備を教育活動に有効に活用するとともに、安全点検を適切に行う。	31	3.0	3.3
情報セキュリティ	本校の管理要綱にもとづき、データの持ち出し・送付等、情報セキュリティ対策が遵守されている。	32	3.3	3.5

【評価分野】5 開かれた学校づくり			R5	R4
評価項目	具体的な目標	NO		
保護者との連携	学校活動や生徒情報などを保護者に提供し、学校と保護者の連携を図る。	33	3.2	3.3
地域や関係機関との連携	学校情報を地域や関係機関に積極的に提供する。	34	3.0	3.1
	周辺大学・高校・中学及び関係機関等との、情報交換や連携を図る。	35	2.9	3.1
	教育活動に学社融合を図り外部講師やインターナショナル制等を有効に活用する。	36	3.3	3.3

① 3.0以上の項目数 22項目/36項目中 61.1% (91.6%)

② 前年度比較 (上昇) 3項目/36項目中 8.3% (30.6%)
(下降) 29項目/36項目中 80.6% (36.1%)

③ 評価が特に低い項目 ※ () 内は前年度評価
 NO.6 2.6 (2.9) 「家庭学習用課題は90%以上の生徒はやってくる」
 NO.14 2.0 (2.7) 「服装、容儀等について教職員が共通した指導を行う」
 NO.15 2.5 (2.7) 「外来者や教職員に90%以上の生徒が挨拶をする」
 No.22 2.5 (3.0) 「部活動を奨励し、学習との両立も図られている。」
 No.27 2.7 (3.1) 「授業見学等の機会を設け、教員相互の教育実践の向上を図る。」
 No.29 2.7 (3.0) 「教育センター等の各種研修会へ積極的・計画的に参加し、資質の向上を図る。」

④ 意見抜粋
 ・ [学校運営] カリキュラム・マネジメントに関する共有、組織としての取組みが課題。
 ・ [教科指導] 教科内で評価基準の検討を行った。
 ・ [生徒指導] 容儀マナー指導について、学年間・職員間で指導の方針や温度差があり、生徒にもそれが伝わってしまっており、不公平感を感じる生徒が一定数いる現状がある。
 ・ [探 究] 総合的な探究の時間の計画・実施・評価について、組織として体制化されておらず、各クラス担任へ負担が偏っている。
 ・ [危機管理] 危機管理の面からもう一歩早い判断・決断をしてほしい。
 ・ [部活動] 特色ある学校にするため部活動の活性化をはからねばならないのではないか。
 ・ [組織運営] 校則規定の見直しに関する学年、分掌間の連携、意見交換、実現が課題。
 ・ [外部との連携] 外部講師や卒業生をもっと活用していかねばならない。